

1 組織

- (1) 東京都立松原高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（進路指導部主任）、主任教諭（生活指導部主任）
計5名
- (3) 協議委員の構成
学識経験者（大学学部長他）、警察署（係長）、消防署（所長）、地域自治会（副理事長他）
PTA会長、同窓会会長、校長が認める者（教育関連企業事業部長） 計12名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会
 - ア 第1回 令和7年6月26日（木）内部委員10名、外部委員8名
協議委員委嘱、評価委員選出、令和7年度学校経営計画説明
 - イ 第2回 令和7年11月13日（木）内部委員10名、外部委員7名
上半期の進捗状況報告、学校評価アンケート説明
 - ウ 第3回 令和8年3月13日（金）内部委員7名、外部委員7名
教育目標達成に向けた取組報告、学校評価アンケート集計結果報告
- (2) 評価委員会
 - ア 第1回 令和7年11月13日（木）内部委員3名、評価委員2名
学校評価アンケートの質問内容について検討、集計スケジュール確認
 - イ 第2回 令和8年3月13日（金）内部委員2名、評価委員1名
学校評価アンケートの集計結果における分析及び検証について

3 学校評価アンケート調査報告

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の課題解決に対する意欲」「学校の取組」「学校の成果」
- (2) 実施時期・対象・回答数
 - ア 12月 全校生徒 対象：26名 回答：25名（回答率 96%）
 - イ 12月 全保護者 対象：22名 回答：12名（回答率 55%）
 - ウ 12月 地域 対象：12名 回答：6名（回答率 50%）
 - エ 12月 教員 対象：8名 回答：7名（回収率 88%）
- (3) 評価項目
「学校生活全般」「学習指導」「生活指導」「進路指導」「スクールカウンセラー」「給食」
「学校ホームページ」「学校施設」「ライフ・ワーク・バランス」の9領域25項目
- (4) 評価結果の概要
各評価結果を集計し、生徒・教員・保護者の意識傾向差を確認した。

(5) 評価結果の分析・考察

主として調査方法を「FORMSによる入力回答」にした。

ア 全校生徒：肯定的評価はどの項目も過半数を超えている。

- ・「学校生活が楽しい」が96%(11ポイント増加)「気軽に相談できる先生がいる」100%(19ポイント増加)「松原高校に入学してよかった」92%(10ポイント増加)「授業が分かる」100%(19ポイント増加)とあり、学ぶことや学校に来ること自体に満足していることがわかる。
- ・「学校の生活指導は適切に行われている」96%(3ポイント増加)、「部活動が楽しい」95%(6ポイント増加)とあり、授業以外にも生徒の居場所となっている。
- ・「将来について考える行事やHRがある」100%(4ポイント増加)、「ひとり一人の進路希望に進路希望に合わせた指導をしている」96%(5ポイント増加)とあり、生徒に進路について考えさせ、ひとり一人に寄り添った進路指導をしていると感じてくれている。

イ 保護者

- ・「学校生活が楽しく送っている」100%、「先生は、子どもの相談に応じてくれている」100%、「入学させて良かった」100%とあり学校への満足度が非常に高いことがわかる。
- ・「生活指導が適切に行われている」は、「そう思う」が100%で保護者の信頼度が高いことがうかがえる。
- ・「将来について話をしてくれる」91%(13ポイント増加)。学校で考える機会を与えていることが保護者に伝わってきていると推察する。

ウ 地域

回答方法を「FORMSによる入力回答」に加えて「アンケート用紙への記述回答」に変更したことにより昨年度回答者は5人から今年度6人に増えた。今後、定時制の教育内容を披露する機会が必要だ。また、地域との連携などを工夫して行くことが課題である。

エ 教員

全ての項目で肯定的回答が過半数を占める。放課後や長期休業期間中の補習授業の充実、学校全体での遅刻指導の改善、キャリア教育の計画改善など教員間の更なる意識向上を図る。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・地域や小中学校との交流する機会を増やし、教育内容を広く知っていただく取組が必要であると認識できた。

(2) 課題

- ・近隣の住民は、教育内容をより一層知りたいと望んでいることが分かった。
- ・より適正な評価を行うためには、協議委員や地域に対して、もっと情報提供すべきである。

- ・数値による「量的な評価」ではなく、言葉による「質的な評価」を大切にすること。

5 学校運営連絡協議会や学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

ゆっくり、しっかり、一歩ずつ学びを深める教育力をもって、生きていく力を育む。

(2) 学習指導

個に応じた学習課題の把握に努め、「楽しい授業」「分かりやすい授業」で基礎学力をしっかりと定着させる授業実践を推進する。

(3) 生活指導

挨拶を励行し、ルールやマナーを重んじた授業規律を基盤とした生活指導を推進する。

(4) 特別活動

多様性を尊重し、学校生活にゆっくりと順応する交流や協働体験を推進する。

(5) 進路指導

関係機関と連携し、社会とのつながりを一歩ずつ体感させるキャリア教育を推進する。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合（協議委員12名）

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
2	1				1	9

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

特になし